

## 子どもと一緒に遊ぶ中で

朝夕は寒くなってきましたが、日中は秋の暖かな日差しが降り



り注ぎ、気持ちの良い天気が続いています。昼休みにグラウンドに目をやりますと、いろんな学年の子が外で楽しそうに遊んでいました。子どもたちがよくしている遊びから、サッカー、総合遊具を使ったおにごっこ系の遊び、ドッジボール、ブランコが人気の遊びのようです。



こうして晴れた日には、子どもたちと一緒に先生方が外で遊ぶ姿をよく目にします。先日の昼休み、数えてみますと6人の先生が子どもたちと一緒に遊んでいました。HP「校長室から」で何度か紹介した業務改善ダイヤモンドランキングで先生方は『子どもと話す・遊ぶ』ことは『授業』に続き重要と位置付けていて、それを実践しています。遊びでは、授業ではわからない子どもたちの様子が





観えたり、子どもとの関係づくりができたりします。

また、子どもたちと一緒に遊ぶ中で、先生は「ナイスパス」「遠くまで投げられるようになったねえ」「〇〇さん困っているんじゃない」「謝った方がいいよ」

など子どもたちを褒めたり励ましたり応援したり、時には友達たちの付き合い方を提案したり、明らかに悪い場合は謝ることを勧めたりと、子ども同士をつなぐ役割を担っていることが、声かけの言葉からもわかります。

最近、児童数の減少に加え、危機管理の面から下校後子どもたちだけで遊ぶ場や機会も少なくなっています。また子どもたちが群れて遊ぶことが少なくなったり、遊んでいても同質（同学年）との関係だけだったりになると、どうしても対人関係を十分に鍛えることができなくなると考えます。

学校で取り組んでいる縦割り遊びや縦割り掃除などもそうした情勢を反映している面があると思います。

今、校名募集を行っている竹田小・前山小の統合校でもこうした遊ぶ機会を大切にしたいと先生方と考えています。



